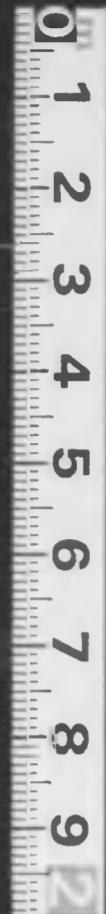


寫眞週報

編輯局報情
五月二十日 第二十七號

昭和十八年五月二十日 第八千七百一十一號



戦ふ力は

人の和から生れ出る

人の和は

我々の生活が戦場に通じ お互に

戦友だと思ふことから湧き出でる

戦ふ生活が

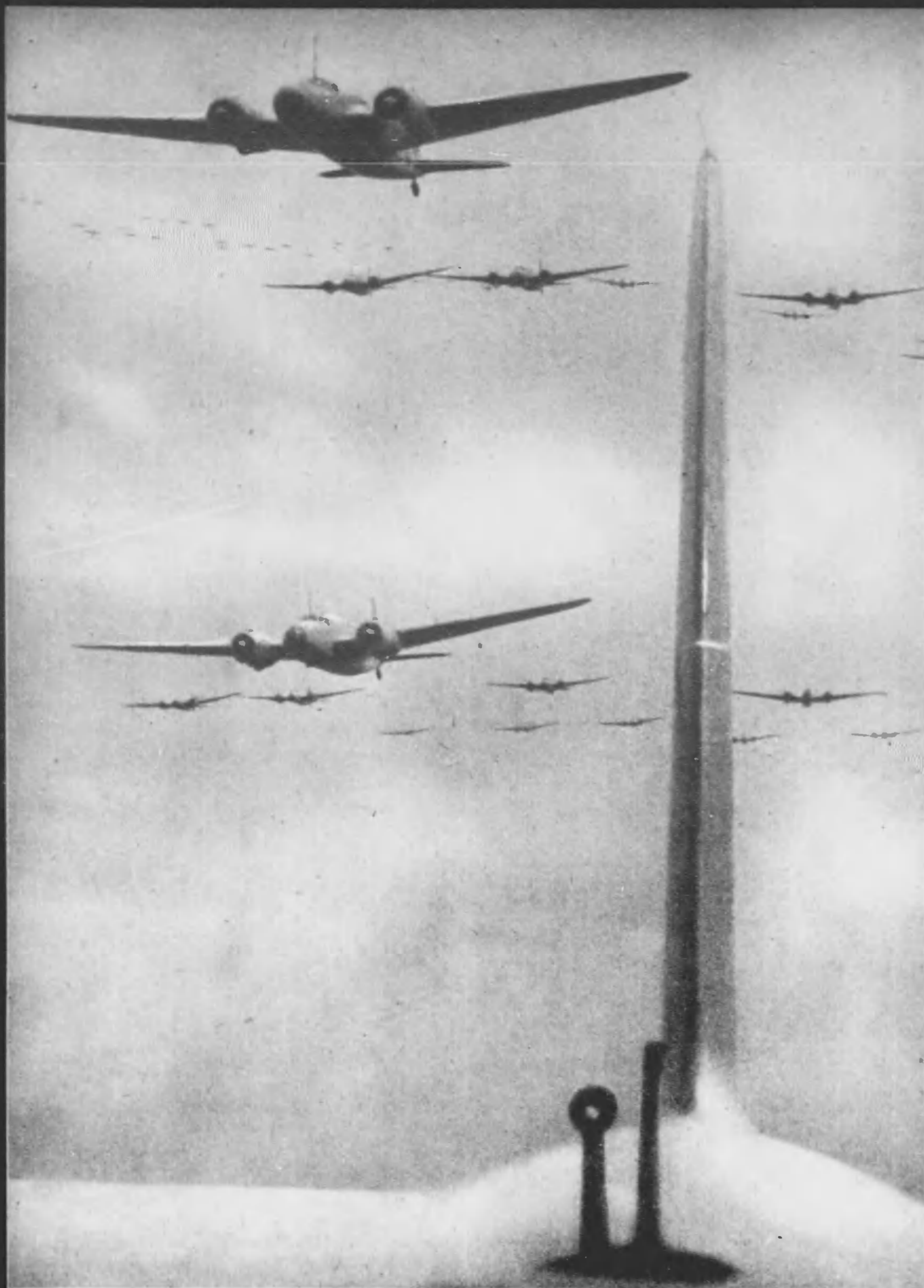
乏しくなればなるだけ

苦しくなればなるだけ

いよく強く いよく明るく

銃後の戦友愛を發揮しよう

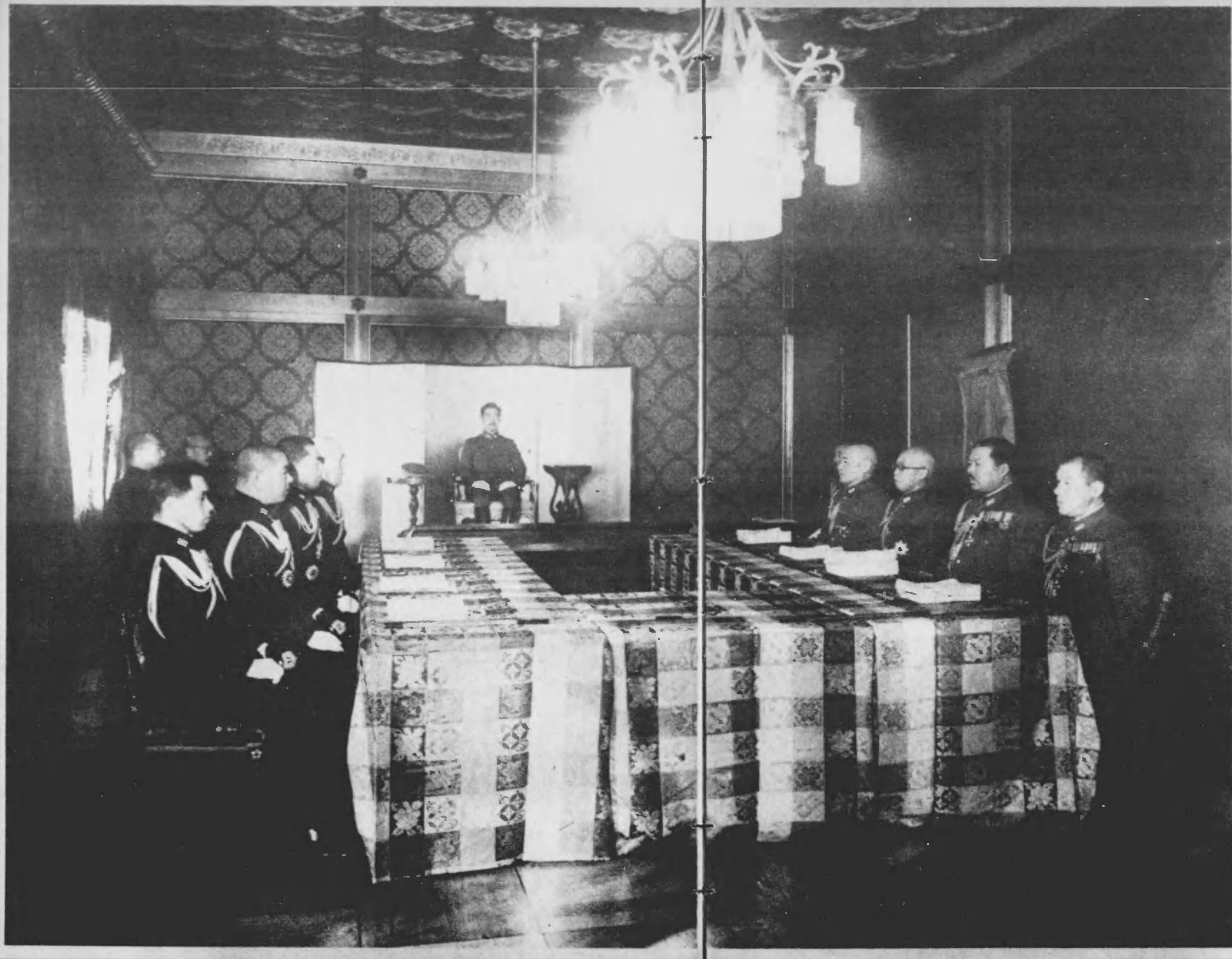
新鋭陸鷲堂々の威容



聖戦の無窮を轟き
まつる天長御親兵式
は四月二十九日、畏
くも 大元帥陛下の
親臨を仰いで、練武の
聖野代々木原頭にて、
いと壯麗に挙行せら
れた
空を蔽ふ鋭鷲八百
機、地軸を揺がす鐵
獅子五百輛、さらに
中村諸兵指揮官以下
の陸の精銳數方が
大元帥陛下の御馬前
に繰展げる堂々の決
戦進軍は、いまや北
に南に「撃ちて止
まむ」を標し、米英撃
滅に突進する雄たる
皇軍の威容をそのま
まの逞しさであつた

大元帥陛下大本營に親臨

右側 前列上位から杉山元陸軍大將、田邊盛武陸軍中將、磯部精衛陸軍少將、真田雅一郎陸軍大佐、後列連沼基陸軍大將、左側 前列上位から水野修身海軍大將、伊藤繁一海軍中將、福留繁海軍中將、山本龍雄海軍大佐、後列東條英徳陸軍大將、嶋田繁太郎海軍大將



米英聯軍の戦果赫々として皇威四海に輝く大東亞戦争下天皇陛下には御日出度く第四十二回の御慶辰を迎へさせられた。親しく曠古の大みいくさを御統帥あらせ給ふ陛下には玉體彌が上にも御健やかに、天機ますます麗しくわたらせ給ふと承るは、一億赤子の感激これに過ぐるはなく、大東亞十億の民族とぞつて御慶祝申上げるところである

あらせられてよりこゝに六星霜、晝夜の別なく帷帳の職務をみそなはせられ、深更に及ばせ給ふことも屬、とまれ承るは恐懼の極みであるが、第一線の將兵はもとより、銃後民草のうへにまで注がせ給ふ投き大御心のほどを拜し、みたまわれらたゞく感泣、聖壽の高嶽と皇室の靈榮を祈念し奉るとともに、大東亞戦争完勝に邁進し、もつて聖慮を安んじ奉らんことを御誓ひ申上げる次第である

謹啓 宮内省

大君に命を捧げては 今も戦も日

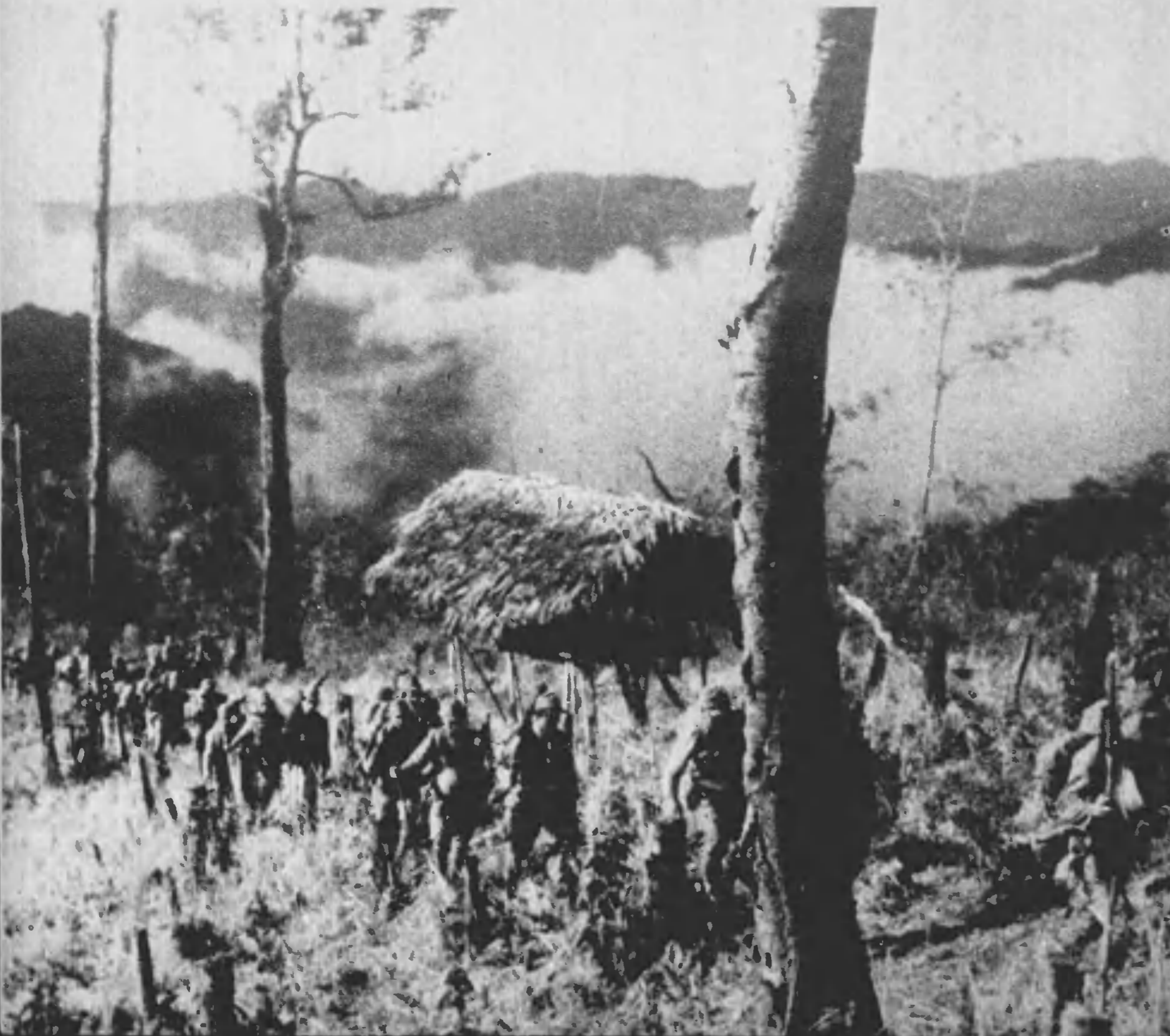


◯ 罅や洞穴、これが勇士の住居である。一握りの米、これが勇士の糧食である。雨に濡れ、炎熱に灼け、敵の砲撃に明け暮れる、これが守備隊員の毎日である。だが、勇士の全身を燃え立たせるもの、それは断じて撃つ勇気である。南方〇〇戦線から名もなき山を分けての強行軍は今日もまたつづく。敵に逼るのを察し、に重い背骨をがごとくと肩にこらへながら、敵友の遺骨を前に、勇士は黙々と密林をくぐり、坂を攀ちる。遺骨を包む白布もいつしか戦塵に汚れ果ててゐた。北部印緬境域戦線から長き遠りより御差遣の坪島待従武官はこのほど南太平洋方面第一線を巡視、凡ゆる困苦に耐へて敵撃滅に奮闘するわが將兵に有難き聖旨、令旨を傳達したが、畏き大御心を拜した前線將兵はこの有難さに感泣、敵撃滅の決意を更に深く誓つた。



「大君のみ光あればこの戦さ必ず勝たん勝たておくべき」ガダルカナル島に雲霞の米兵を迎へ撃ち、この世とも思はれぬ死闘を續けた勇士の血の絶叫である。また「最早我々はたゞ一切を大君に捧げて米軍を撃つのみ、後に續くものを信じて我々は突撃するのだ」と勇士たちは血涙をしばりつゝ、純一無雜の誠忠に殉じていつた。決戦の様相が一日と尖鋭化してゆく現在、後に續くものわれら、顧みて些かも恥ぢるところはないだらうか

また心を鎮め、静かに喉に描いてみよう……泥濘の中を米俵を擔つた一人の兵隊がゆく。發熱と疲労と空腹で骨と皮、幽鬼のやうな兵隊だ。ダダダ、たつた一人のこの兵隊をめぐって敵機が繰返して舞いでゆく。兵隊は崩れ折れるやうに椰子の根方にうづくまつて敵機をさけた。敵機は遊覽バスにでも乗つたやうな恰好で椰子の柄をかすめて飛び去る。暫くしてやつと起ち上つた兵隊は、また泥濘の中を歩み續ける。あつ！力つきた兵隊は、米俵とともに泥濘の中に轉び伏してし





敵の遺体
戦場の惨状を写したこの写真は、戦死者の遺体を写したものである。戦死者の遺体は、戦場の惨状を写したものである。戦死者の遺体は、戦場の惨状を写したものである。



念人の整備
戦場の整備を写したこの写真は、戦場の整備を写したものである。戦場の整備を写したものである。戦場の整備を写したものである。



撮影 寺尾
海軍報道班員
くる日もまたく
る日も、アメリカ
カへの突撃路、
南太平洋の戦を
闘いて、わが艦
は哨戒任務に出
動する
けふの哨戒任務
は特に重いぞ。
航路を脱んで搭
乗員は緊張する

またつた。兵隊はいつでも動かない。この兵隊は、前線の戦友にや
りたいたい。念から自分は食はずに、いや自分が餓え果てることも忘れ切
つておたのだ。われは海軍たる熱源が煙を傳ふのを察し得ない
しかも、こんな悲惨な状況にあつても、すこしも動するところなく
戦ひ續けた。将兵が、たゞ来たことは何んだつたらうか。内地は四月
十八日以来空襲は受けてはゐないだらうか、東京あたりもう十週くら
ゐやられてはゐないだらうか。そののみである。また内地では食ふも
のがなくて、國民学校の児童が腹をへらして校庭でバタ／＼倒れてお
るといふデマに對して、一日三勺か四勺きり食べてゐない將兵が「内
地の人は氣の毒です」と心配してくれた
東太平洋方面の作戦で、最後の最後をとげた山口司令官が艦隊長官に
遺した言葉は「敵の残る一艦に止めを刺す前に、かくなつたことは殘
念に存じます。どうかこの仇を晴らして下さい」である。また加來艦
長が沈みゆく艦上で行つた最後の訓示は「戦ひは正にこれからだ。諸
子の同僚はこの海底に沈んでも、この海上は敵アメリカへの撃滅
路として、無数の英魂は萬世かけてわが太平洋を護るであらう。敵米
英を完膚なきまでに叩き潰せ」であつた
われら後に残るものは、たゞこの撃滅路を米英屈辱の日まで突進す
るのみである

大君に命を捧げ 海軍は今日も米本土突撃路へ





母の慰問袋

南支派遣軍高澤部隊
安江 明治

「おい慰問袋だぞ」と

につこり笑って見て、戦友が手渡してくれた懐かしい母国からの慰問袋だ。
赤い、やうな大きな喜びが私の頬一面に浮かび上つてきた

もどかしく動く鼠の手の鉄を賑やかに眺めてゐる戦友の瞳は生々としたまゝをたへてゐるが

その包裹の紙に、そのしつかりと結んだ細紐に
母のあたゝかい真心を感じて
歳どいた優しい姿を思ひ出させる

空襲を利用して入れたお前敵、南京リタール、そして英年平

いづれを手にしてみても

戦後の緊張した生活を切りつけて送つてくれた魂のこもった新しい初物の
滑らない、ほんとに滑らない
何時の曲にかぐつと熱いものが私の胸一杯に擴がってくる

「お母さん」と
私は子供の如くはしやきながら
甘えた氣持で遠い故郷の母に呼びかける
ポタ／＼と落ちる汗をぬぐひつゝ

この最前線の灰色の支那家屋の一角で
盛夏の戦陣の一時を過してゐる
貞女の子も、そして戦友も
貴女の送つてくれた慰問袋を開んで
こんなにも、をどり上らんばかりに喜んでゐるのを

私達の慰問袋に兵隊さ

んは大喜び

「これは、どうかしらりの、ノントレ、ナナ、内世の楽しい少女を、お寄せました」

戦後の善さん、慰問文や慰問袋をどつきり送つて下さつて、どうも有難うとマライ軍の兵隊さんから慰問袋を通じてお禮をいって来ました

「戦後の下り山中から真心こめて送つて下さつた慰問袋の到着は第一喜にまさる男士の心を打つ」

兵隊さんも内地からの財物を藏く時は感傷に反り悔を感ずる、子供のおもちゃを持つてゐる、お父さん、お母さん、一時は安心した、お父さん、お母さん、お父さん、お母さん

「戦後の下り山中から真心こめて送つて下さつた慰問袋の到着は第一喜にまさる男士の心を打つ」

「戦後の下り山中から真心こめて送つて下さつた慰問袋の到着は第一喜にまさる男士の心を打つ」

「戦後の下り山中から真心こめて送つて下さつた慰問袋の到着は第一喜にまさる男士の心を打つ」

「戦後の下り山中から真心こめて送つて下さつた慰問袋の到着は第一喜にまさる男士の心を打つ」



日華の若人南交に驩

— 中国青少年團の誕生を祝して —

忘られなれぬ
感激と思ひ出



大日本青少年代表 川崎マサ

三月十一日、南京小笠原兵衛大青少年の歩調にも、新中國の状況で、中國青少年團の結成式が行はれました。この日は、中山山見えます。全国各地から、青少年が集つてゐる。北京、天津、上海、漢口、青島、大連、長春、瀋陽、哈爾濱、大連、長春、瀋陽、ハ

日本代表の如く規律正しく行動し、と演説されました。あれ／＼には忘れられぬ感激でもありました。

三月十八日、南京に於いて以來、日滿華三國代表によつて中山の發祥、野外交渉、御座る竹園の間に、三國青少年の強い友情と團結は、其の感情にまでたかまつていきました。そして二十一日夜、中國文化協會で行はれた三國青少年會議は、三國青少年大會の開催使節の交換、及び演説されて、東亞青少年連誼の上に大きな一歩を踏み出した。中國青少年團に誕生したばかりです。いま直ちに完成されることと見込まれます。



南京光華門前で朝比奈参謀長より勸告の演説を受ける日華代表 中國青少年團結式に於ける汪主席の演説の模様



無事結成式を終つて陣旗の波に包まれ、喜色溢れる幹部大員

中國の青少年と交驛して

市川文夫

われ／＼の中國に運送されたのは、中國青少年團結式をお祝ひするためであつた。中國が参戦した今日、中國青少年團が中國の青少年を奮勇する参戦の體制である。われ／＼は戦ふ日本の青少年の姿を正しく傳へて、相共に大東亞戦争完成に於いて同生共死の誓ひを果すことを志願してゐる。このことは中國を救ふ唯一の道である。われ／＼を團結することのなかつたわれ／＼の體りであつた。上海、蘇州、南京、北京と各地で中國青少年と交驛の機會が與へられた。彼等は心からの友情をもつてわれ／＼を逢へてくれた。日本の正しい道義が、彼等をして日本に對して尊敬と信頼を抱かせてゐることが、このやうにわれ／＼に對しても親愛となつてあらはれたのだと思つた。われ／＼はこの國への信頼を裏切つてはいけないと思つた。

三月二十日、南京の街一杯に喜色が漲つてゐた。治外法權の撤廃、租界の返還などの新しい對支方案が中國の人人に明るい希望を與へてゐた。かうした對國氣の中で行はれた遠征三周年記念式典も、新中國の建設をそのまゝにうつつしうに感激的なものであつた。われ／＼も差別を許されず、汪主席の演説を聴いた。言葉はわからないが、愛國の至情に涙が自分自身をこぼすことも出来なかつた。ときどき起る熱狂的な拍手に、一人の領袖を借して結ぶ中國民の團結も頼もしいものであつた。

大日本青少年團長よりメッセージを捧呈したとき、汪主席は大東亞戦争に青年のたけの旗ひであるといはれ、青年の奮起を力強く述べられた。蘇州の清鄉地帯を訪ねたとき、軍參謀は「この地帯では日夜中、娘一人歩いても危険があります」といはれ、汗の作戦とさへいはれる清鄉工作の苦心を語つてくれた。中國人に信頼される日本人にして、はじめに東亞の指導力となれるといはれた言葉も忘れることが出来ない。中國の青少年は日本の青少年の生活に強い關心を抱いてゐる。彼等は戦ふ日本の青少年にみならつて、新しい中國の建設に挺身しようといふのであらう。中國を救つて新しい使命を強く感じて歸つた。

中日交驛における日滿華青少年代表の交驛模様 撮影 大日本青少年團





手榴弾投擲突撃(左上と右)——力一杯手榴弾を投げるや銃聲を閃かせ、
假想に突撃、閃光を閃先にこめてエイとばかりに突込む。
素引——砂壘を立てての取囲ぶりと白衣勇士の襲撃

學徒の闘魂 戰場運動に燃ゆ

東京

最近の世情にまると、アメリカ空軍の主力、殊に機銃隊の八十七パーセントは學生出身者であるといはれてゐる。空軍増強に躍起となつてゐる敵は、地味に拍車をかけるように、陸軍も近頃で、科學知識に富む學生を總動員、これに短期間の訓練を施して前線に送り込んでいるのである。

今さら敵の例をひくまでもなく、最近の決戦情勢は、學生にも敵に抗門は熱門に燃やさるべきである。敵は戦場を燃やさるべき心算を要求してゐる。今何、文部省ではこの熱意に呼んで、戦時學徒體育訓練實施要綱を決定、その目標を「つきりと戦力増強の一助に結集し、國運の推進力である青年學徒の體育訓練を徹底強化することになつた。

従つて今後、男子の體育訓練は、戰場運動の訓練に重きを置いて實施されるわけであるが、學内皆訓練の實をあげるため、正課の時間のない日でも、一日一回以上は必ず全校體育訓練の時間を設けて、これらの訓練種目

戦時 學徒の 體育訓練

はもろくん獎勵されるが、その試合は出来るだけ學校内運動場とし、入場料をとらず、旅行しないことを原則とし、實情を考慮しない場合でも、文部省の指示によらなければならぬ。

文部省では、要綱中の支柱となる訓練種目については慎重な態度をとり、審判種目を明らかにすると共に、それ以外の運動種目も、校長の教育的意見と學校

當局の指示を時局認識に照らして、訓練の戦時的な効果を考慮してゐる。即ち軍に外軍の競技であるからといふ理由だけで排除せず、また日本のあるからといふ無條件には採用されることがない。即ち第一大決戦に備へるために効果的な種目を選び、その特徴をまず「發揮させることに措きられたわけである。

即ち男子學徒の訓練種目は、行軍、戰場運動、銃剣道、射撃、戦技訓練、體操、陸上運動、劍道、柔道、相撲、水泳、スキー、圓球その他適切な球技を基礎訓練、海洋訓練、航空訓練、馬術訓練、馬車訓練を合はせて特技訓練の三つに大別し、殊に戦技訓練に重きを置いて、強健な學生は全部實施しなければならぬ。

次に女子學徒の訓練種目は、體操、陸上運動と遊力、弓などの女子に適切な武道及び水泳、スキー、女子にふさはしい球技をすべて基礎訓練として行はせ、健康激烈な日本の母を育成するとともに、海洋訓練を加へて海洋に親しむ素地をつくることになつてゐる。



障礙通過——われを阻むものは戦時、隨處も何れのもの



東京東部労働青年会

↑ 働き切れや来も十分にもつてゆきませう。きつとほころびや破れが海山あるに違ひないと一日お母さんは明日の準備に細かい心遣ひをしておます

くる明

僕だつてもう大人なみなんだもの、ちつとも淋しくなかないよ。それに、勝つためには何より大事な兵器をつくる少年産業戦士として大きな希望と固い決意に燃えて、この職場にきてゐるのだもの——と、雄々しい気持を上げる少年達だが、何んといつても家にはまだ母親の愛に甘えてゐたい年頃です。幾度か夢に見たお母さんの優しい面輪を仕事の合間にハッと思ひ出して、獨り微笑むこともあるといふことです。何んといつてもお母さんの温かい慈愛ほど、勤勞青少年たちにとつて増産戦を戦ひ抜くための大きな力となるものはありません。遠く全国各地、各地の工場や寄宿舎に起居して増産に熱氣な奮闘をつづけてゐるこれらの少年達に、一日でも身代りのお母さんになつてやつて、親身に世話をしてみませうと「職場の一日お母さん運動」は、いま大日本産業報国会の主唱に應じた大日本婦人會會員によつて全国にまき起されようとしてゐますが、神奈川県藤澤市辻堂の大日本婦人會の會員達は今日も近くの〇〇製鋼會社の少年工の寮に、思ひやり深いお母さん奉仕を続けておりました

は戦 くる明 りぶんさ母お日一の員会婦日報週眞寫



↑ お忙しいだらうに、今日も僕達の世話にきて下さるんだなあ。さうだ、仕事に一生懸命になつて、きつとこのお母さん

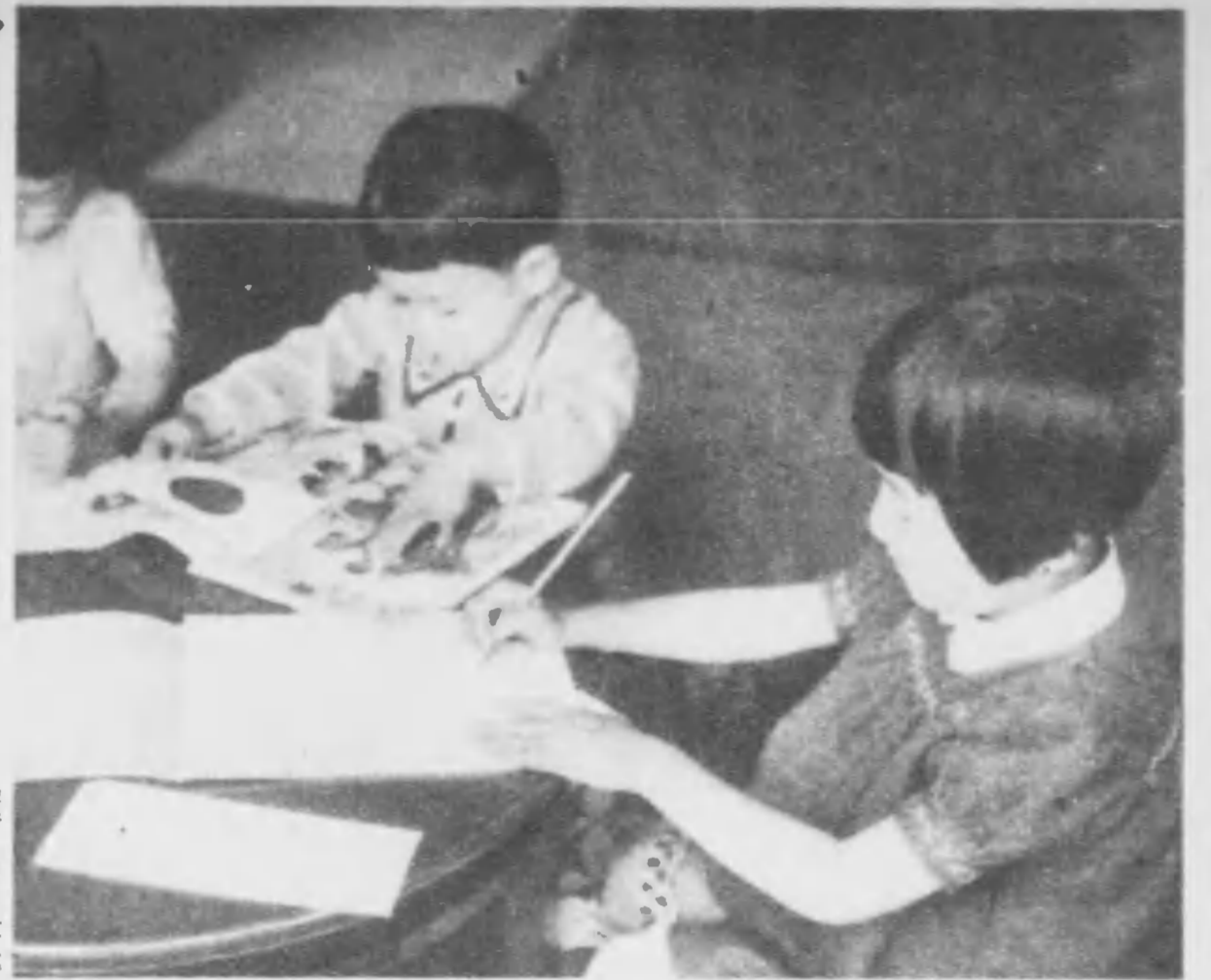


「まあ、よくこんなになるまで、ホッホッホ……」でも僕本當のお母さんみたやうな気がして、つい、頼んたんだけど、困つちやつたな」作業場では明るい笑ひが賑やかに爆発して、山積したつくりの物がせつせと片づけられてゆく

「どう、おいしい、よく飲んで食べるんですよ」故郷にゐた時のやうに、一日お母さんと楽しく二つ食事を囲むことのできた少年達の胸にはきつと熱いものが込み上げたことであらう。甘えたいやうな、くすくすといふ氣持と一緒に

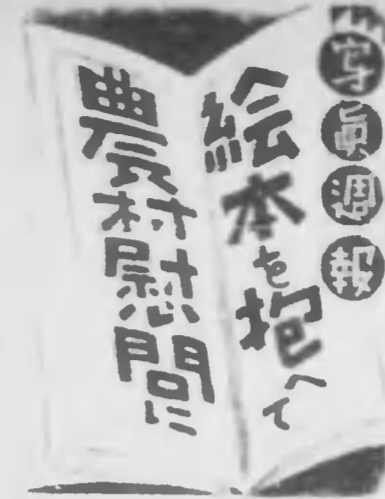


↑ 二日の勤勞で疲れた少年たちには掃除もさぞ大變だらう、と慈愛の眼は部屋のすみ／＼までも細かくばられて——
 ↓ 一日お母さんは一日息子のよこれ物洗濯に一生懸命だ。やがてさつぱりと洗ひ上げられたスボンや履衣を身につけるととき少年たちは日本の少年としての幸せをしみ／＼と感じることだらう、肌身に沁み入る日本の母の優しさを
 ↓ 「お母さん、ご苦労さま、今度は僕達の親孝行ですよ、澤山召し上つて下さい」働き疲れたお母さん達に、少年工達のよろこびの氣持をくんだ會社側で用意されたおやつが、非番の少年達の給仕です。いめられる、お父さん役の勤勞部長さんも一緒にお茶の接待だ



一生懸命に机の端で感謝の心をこめて、東京の子供の感謝文

撮影 吉川慎十郎



うは戦くる明

皆さん、こんにちは、東京のお友達からお待ちかねの『絵本を打て!』が来ました。これは、今年ほど、農業の大切さを、子どもたちに伝えるための、絵本です。絵本は、子どもたちに、農業の大切さを、やさしく、わかりやすく、伝えるための、大切なツールです。絵本を打て! 農業は命。この言葉が、子どもたちの心に、しっかりと刻み込まれますように願っています。

昨年の米の買収高は六千六百七十七万石、近來にない大豊作に銃後の兵站線は磐石の重みを加へた。農家の持ちまゝありがたう、努力も足りない。肥料も不十分だつた。だが、農家の眞鍮歌謡は、遂にあらゆる悪条件を克服してしまつた。あの大戦果の陰に、にじむ苦勞のほども思はれる。農家の持まゝ苦勞さまゝ一口につくせない感謝の一端を託して、都會から感謝文、感謝袋、繪本などが全國の農家に送られてきた。中央食糧協力會と大日本婦人會が共同主催で、六大都市を中心に食糧増産協力運動を展開、各家庭の感謝が二十五万の感謝袋、八十八万冊の繪本となつて現はれた農家への贈物である。

『お父さん、東京のお友達がおね、決して一粒も無駄にいたしません。』さきには米價の大幅引上げがあつた。農家の苦勞も決して忘れてはゐない。『他達は今年も一粒でも多く、決して不自由はかけません、と書いてやりなさい。』かくて固く結びついてゆく都會と農村の心が、食糧戦にも逞しく明るく勝ち抜いてゆくのだ。

都會からの贈物に歡躍をあげ喜び合ふ子供たちを前に、新しい増産の敵がよるはれてゐる。



千葉農園に送りこまれ

『東京のお友達からお便りよ、ご苦勞さまで



千葉農園に送りこまれ

『東京のお友達からお便りよ、ご苦勞さまで

『僕のもあけて下さい』繪本を架めに來た日輪の小母さんに喜んで供出



大東亞戰爭漫日誌
介 川石



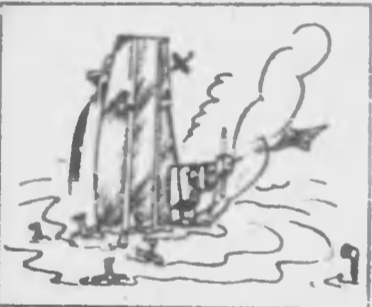
母を慰むる兵隊の軍服



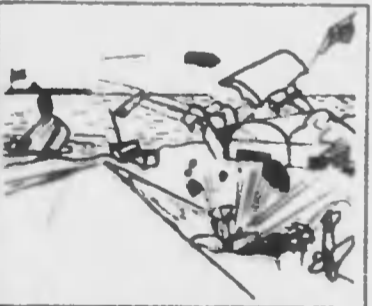
母を慰むる兵隊の軍服



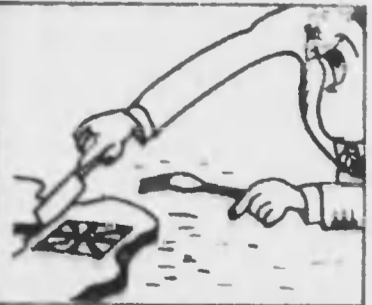
母を慰むる兵隊の軍服



母を慰むる兵隊の軍服



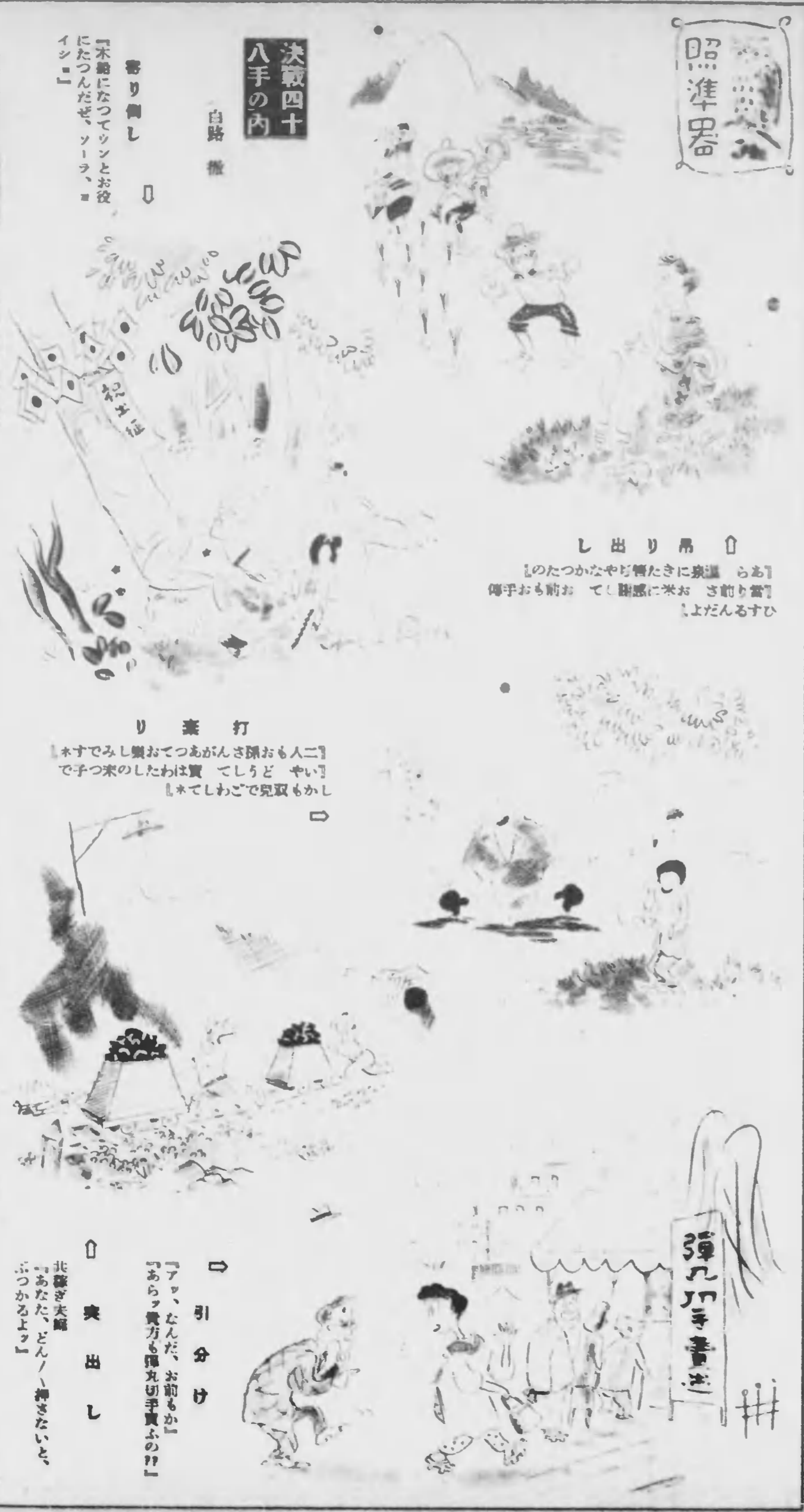
母を慰むる兵隊の軍服



母を慰むる兵隊の軍服



母を慰むる兵隊の軍服



照準器

決戦四十
八手の内

「木箱になつてソソとお役
にたつたぞ、ソソ、ソソ、
イン。」

しりり

【のたつかやど響たきに泉源 らあ】
【傳手おも前お てし 謝感に米お さ前り當】
【よだんるすひ】

り 棄 打

【ホすでみし製おてつあがんさ頭おも人二】
【で子つ米のしたわは買 てしうど やい】
【ホてしわごで兒取もかし】

弾丸の手書

「アッ、なんだ、お前もか」
「あらッ貴方も弾丸切手賣ふのッ」

「あなた、どん／＼押さないよ、
ぶつかるよッ」



重大噴れの出征
物言はぬ戦士、軍用
犬も米英軍滅の気魄に
燃えて大き〜と出征
してあますが、長野縣
では大政翼賛會、夏野
壯年團が主眼となり、
趣味的、娯樂的香犬の
絶滅をはかる一方、こ
のほどの検査に合格し
た多数の軍犬に勇躍時
れの感銘をさせました



傾々できる石製
軍標
岡崎市 太田正勝
四百年の傳統を誇り
石都岡崎の石工街一
は、銅鑼回收に勇んで
應召していつた尊徳
侯、楠公像その他の身
代りや、さては戦後勇
士の石碑の製作にと、
業者三百餘名をあひ
て、いま大量の石製
報國を續けてゐる



畫映院推省部文

撃攻總ルーポガンシ

陸軍省 後援
マライ派遣軍協力
大日本映畫製作株式會社製作

東亞侵略の最大據點として
敵イギリスが難攻不落の牙城
とたのんだシンガポールは、
わが大東亞解放の聖戦が始ま
るや忠勇果敢なる皇軍の怒濤
の進軍により一掃にして潰え
去つた

本映畫は、マライ、シンガ
ポールの攻略における皇軍一部
隊のマライ半島上陸より、シ
ンガポール總攻撃に至るまで
の勇戦奮闘の状況を劇化し、
併せてマライ原住民の皇軍に
信頼協力する姿を現地撮影に
より描いたものであり、國民
一般に新たな感動を與へるも
のがある

★表紙
山頂の敵が必死に撃ちつ
け、弾丸は大地を割し、雄を
貫き、マライのやうに誇り
、部隊はこの弾丸のメ
ノールをじつと身を伏せて
耐へた、森林に死の静寂が
つく

安部 龍之介
隊長のあつたらしい姿が
、下から、しつと下から、勇士
たを上げ、ひびひびと山
頂を這へて、その驚愕を
、のくく、その驚愕を
、のくく、その驚愕を

訂正 本誌前巻(五月五日発行)第
五頁下段の寫眞説明中、昭和十三
年度の出生數「千九百二十万人」
とあるのは「百九十二万人」の誤
りにつき訂正いたします

若人よ大空へ



操縦生養成所
(航空機乗員養成所)

募集要項

修業年限

一ケ年(官費)

應募資格

年齢 自大正十二年十二月二日
至大正十五年十月一日

間ニ出生ノ者

學歷 國民學校高等科又ハ中等
學校第二學年以上ノ修了
者

募集ノ切

昭和十八年六月十日

詳細ハ志願者心得参照ノコト
(最寄郵便局又ハ航空機乗員養成所へ請求ノコト要郵券四錢)

航空局

寫眞週報
(禁轉載)

昭和十八年五月
十二日 印刷發行

情報局
東京市墨田区
水田町一ノ一

印刷所
内閣印刷局
東京市墨田区入子町

所 込 申	價 定
全國各地官報 販賣所	一部十錢 (送料一錢)
書店・賣店	外國郵送ニ依 ル地域ハ送料 共一部十九錢
新聞販賣店	▲依約配送希望 ノ方ハ一部十錢 (送料一錢)ノ割 合を以テ前金 添へ御申込下 さい
寫眞材料店	▲特大號の場合ハ 其ノ都度御拂込 金より差額を申 受けます

前線慰問に本誌を
お読みになつたら本
誌を前線慰問に送り
ませう。送料は内地
と同様で帯封あるひ
は封封にして第三種
と明記すれば、一部
一錢です。

内閣印刷局印刷發行

寫眞週報 昭和十八年五月十二日 印刷發行 航空局印刷局印刷發行 第百七十一號